



高校英語『論理・表現』で育てたい力と TOEFL Junior[®]

神戸大学 大学教育推進機構 教授 横川 博一

高等学校の英語に新しい科目が登場しました。『論理・表現』という科目です。本稿では、この科目に焦点を当てて、そこではどんな力を、どんなふう身につけていけばよいのかを考えながら、TOEFL Junior[®]との親和性について考えてみましょう。

1.はじめに	p.1
2.新しい英語科目『論理・表現』とはどんな科目か	p.1
3.『論理・表現』で効果的に英語運用力を 育成するために	p.10
4.TOEFL Junior [®] と『論理・表現』の親和性	p.18
5.おわりに	p.23



Danke Sehr

1. はじめに

昔に比べると、世の中はとにかく凄まじいスピードで変化しています。そのスピードについていくだけでも、あるいはその変化を理解するだけでも、それは容易なことではありません。まさに今起こっている新型コロナウイルスのパンデミックも、私たち人類に大きな課題を突き付けたと言えるでしょう。いったいそれは何なのか、それをどう克服して乗り越えていくのか、コロナ後の世界—政治、経済、教育など—はいったいどうなっていくのかなど、取り組まなければならない課題は広範囲にわたり、かつ複雑です。

今起こっている問題を即座に理解し、拠り所とする正しい答えがない未知の問いに対する解

決策を見出し、そして、まだ生じていない問題をも見つけ出す力がどうしても必要な時代が、今私たちが生きている21世紀なのでしょう。こうした力をこれからの時代を生き抜いていく世代の子どもたち一人一人が、みずからの「経験」によって身につけていく必要があります。こうした力を真に身につけるには、表面的なスキル教育では到底太刀打ちできません。それには考える価値のある課題を設定し、探究的に読書を行ない、広く深く思考し、協働でお互いの考えをぶつけ合い、合意形成したり新しいものを生み出していく、長く険しい道のりを経験する以外に方法はありません。

2. 新しい英語科目『論理・表現』とはどんな科目か

『論理・表現』の位置づけ

高等学校では『英語コミュニケーション』と『論理・表現』という科目が登場しました。科目名が変わっても、『英語コミュニケーション』を読解あるいは英文和訳、『論理・表現』を英文法あるいは和文英訳、と従来通りの捉え方をしていると、「はじめに」で述べたような力を効果的に身につけることは難しいかもしれません。

『英語コミュニケーション』では、4技能5領域（読むこと・聞くこと・話すこと（発表）・話すこと（やりとり）・書くこと）を扱うことになっていますが、「リーディング力」の重要性はいっそう高まっていますので、生徒自らが主体的・対話的に取り組むリーディングをコアにし、それに十分な時間を割きながら、重点的・精選的にアウトプット活動を行うことによってリーディング力を強化することが

重要となります。

一方、『論理・表現』は、「話すこと（発表）」、「話すこと（やりとり）」、「書くこと」に特化した科目です。英文法の体系的学習やドリルと単なる和文英訳ではなく、生徒が自ら主体的に、そしてクラスの友だちとやりとりしながら、考え、話し、書く活動に取り組むことが授業の中心です。アウトプットのためにはインプットも重要ですが、インプットの理解にとどまらないよう、重点的・精選的にインプットを与え、アウトプット力を効果的に高めることが重要となります。



英文法は「教え込む」より「使いながら身につける」スタイルに

『論理・表現』は、これまでの『英語II C』、『ライティング』、『英語表現』と変遷してきた流れの延長線上にある科目ですが、「英文法」を体系的に学ぶ科目だという意識が先生方の中には強く根付いているように思います。外国語の学習では、目標言語の文法を身につけないということはありせんから、英文法を学ぶことが重要であると考えるのは当然のことです。

しかし、『論理・表現』=「英文法指導」だという固定観念にとらわれすぎていないでしょうか。こうした状況を疑ってもみないとしたら、少し考え直してみる必要がありそうです。基本的な「英文法」をある程度身につけなければ言語活動もままなりません、それを完璧に、しかも体系的

に身につけてしまってからでなければ、読んだり聞いたり、話したり書いたりできない、と思ひ込んではいないでしょうか。

高校生は中学校で基本的な英文法をひと通り学んできています。しかし、まだまだそれが定着しているとは言えません。しかも、異なる言語の文法はそう簡単に定着するものでもないことは誰もが経験していることです。高等学校では、それをもう一度はじめから説明して教え直すというよりは、さまざまな場面でそれを活用しながら、知識を定着させることを優先させてみる方がいいでしょう。もっと「使いながら身につける」というスタイルに変えてみませんか。

「考える力」こそ時間をかけて育む力

大学入試も少しずつ変わってきているようです。いわゆる英作文問題と言われるものの中からいくつか拾ってみましょう。

[1]や[2]の出題例を見ますと、「暴力的なゲーム」「夏休み中の宿題」「地元を代表するお土産」「はじめての海外旅行の心得」といった身近なことがトピックになっています。一見やさしそうに見えますが、violent gameを禁止すべきかど

うか立場を決めて理由を二つ以上挙げようとするれば、violent gameがどういったものかを多面的に分析する必要があります。はじめて海外旅行する人の立場になって、どういったことを心得ておくに有益か、想像力を働かせて、文化の違いなどに目を向けて考えてみる必要があるでしょう。

[1] 次の二つの質問から一つだけ、少なくとも二つの理由を挙げて英語で具体的に答えなさい。

1. Do you think that violent games should be banned? Why or why not?

2. Should schools give homework during summer vacation? Why or why not?

(電気通信大学)

[2] 次の質問の中から1つを選び、選択した質問の番号を記入の上、100語程度の英語で自分の考えを書きなさい(How are you?は3語と数えます。)

(1) Describe the type of souvenir that best represents your hometown?

(2) What are the things people should keep in mind when traveling abroad for the first time?

(福島大学)

[3] はさらに難易度が上がります。人工知能 (AI) というテーマ、AIの発達によってなくなる可能性が高い仕事といった話題は、英語以外の教科でも取り上げられることも多いので、高校生にとって比較的なじみのある、どこかで読んだことがある、耳にしたことがある、そういう話題の一つでしょう。

しかし、それだけでこの問題に対する英語エッセイを書くことができるでしょうか。AIとはどういうものか、その長所と短所、それが与える影響などについて、いろいろなものを読んだり聞いたりして、幅広い知識・情報を得ておく必要がありますし、AIについて多面的に考えた経験がなければ、解答は容易ではありません。

[3] 科学技術の発展によって、機械やAI(人工知能)が人の代わりをすることが増えてきました。製造業においてはかなり以前から、また近年では運輸や接客などのサービス業でも自動化が進んでいます。このように社会が大きく変わろうとしている中になって、どうしても機械やAIがとって代わることはできない、もしくは取って代わってほしくないとなあなたが考えるのはどんな仕事ですか。具体的な仕事を1つ挙げ、その理由を80語程度の英文で述べなさい。(大阪大学)

単に語彙と文法を身につけさえすれば、あるいは、高校も3年生になってこうした問題演習をただ繰り返すことで、このような問題に対応でき

る力をつけることができるほど甘くはありません。「考えて、表現してみる」ということを早い段階から積み重ねていく必要があります。

「理由」を添えればそれで終わりではない

入試問題を見ますと、多くの場合、「理由を挙げて」とか「具体例を挙げて」という指示が含まれています。「なんだ、理由や具体例を挙げればいいのか」と、書き方のヒントを得たように思いますが、「それなら簡単!」と、そううまくいくでしょうか。

検定教科書の例で説明しましょう〔検定教科書からの引用はすべて、令和4年度版**CROWN Logic and Expression I**(三省堂)からのものです〕。



前ページのダイアログの内容を踏まえて、あなたなら *OriHime* を、どんなときに、どんなふうに使ってみようと思うか。下線部を言い換えて、グループで意見交換してみよう。

A: What would you like to do through *OriHime*?

B: I have many things to do through *OriHime*. **For example**, I'd like to take lessons when I'm absent because of an injury so that I can participate in the class and understand well.

A: That's a good idea.

これは、吉藤健太郎さん(通称、オリィさん)が開発した分身ロボットOriHime(オリヒメ)の仕組みについてやりとりしているダイアログに続くタスクで、下線部を置き換えて自分の考えを表現するものです。

「具体例を挙げて説明する」と言っても、for example, for instance, such as を使えばそれで終わりというわけではありません。この例では、以下に示すように、①どういうときに、どう使いたいか、②そうすると何が出来るか、を述べて「具体

例」としています。具体例を、どんなロジックで、どんな表現形式を用いて言えばよいかを読み取って、表現してみるという経験を積んでいきます。「理由」や「具体例」を述べるといっても、そう単純なものではないことが分かります。これを聞いたり読んだ人に「ああ、なるほどね」、「そのアイデアいいね!」と思ってもらうには、どんなロジックで、どう表現すればよいかポイントになりますが、それには時間と経験が必要です。

I have many things to do through OriHime. ➡ 具体例を挙げて説明

① どういうときに、どう使いたいか
take lessons **when** I'm absent because of an injury

② そうすると何が出来るか
so that I can participate in the class and understand well

具体例

入試対策としてもやっぱりだいじなのは「中身」

入試問題では、語彙や文法が正しく使われているか、求められているものが所定の分量できちんと書かれているかが評価されるのであって、中身、つまり書かれた内容ではないから、形式を

整えて書けるようになればいいのではないかと考えるのも不思議ではありません。

たしかに、入試問題の中には次のように明記しているものもあります(下線は筆者)。

ピクトグラムについてのあなたの考えを50~60語(words)の英語で書きなさい。なお、この問題は英語の作文力を問う問題であり、答えの内容を評価するものではありません。 (岩手大学)

もちろん、これはどんな考えや意見を書いたかを評価するものではないということであって、書いた内容に中身がなくてもよいということではない、ということは言うまでもありません。

また、次のように評価の観点が見られている例もあります。この表に示されている評価基準の「内容」は、上で述べた「内容」とは意味が異なりますね。

下線部(2)が示しているのは、2020年8月のカリフォルニアの森林火災後に注文した苗木が届くのが、2022年になるということである。苗木の到着までに計画を練る時間が2年間ある。さて、あなたの将来のために、今後2年間で新しいことを1つ始めるとしたら、それは何か。あなた自身の今後2年間の計画を英語で説明しなさい。なお、書かれた英文は、以下の3つの基準によって評価される。

評価基準	観 点
正確さ	適切な語彙・文法の使用など
内 容	計画内容の明確さ、具体性、深みなど
構 成	説明の論理性、主題の一貫性など

(三重大学)

中身がない意見にもかかわらず、becauseやfor exampleなどの論理関係を表す表現が適切に使われているからといって、それだけで高得点

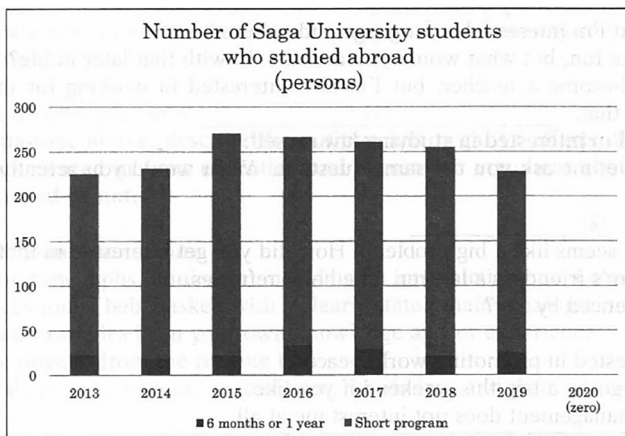
を望むことはできないでしょう。そもそも中身がないのに形だけを整えて書くなんていうことは無理なことです。

英作文問題のもう一つの新傾向

最近の大学入試問題をざっと見ますと、もうひとつ新しい傾向の英作文問題が目につきます。[1]のように、(1)グラフや表から情報を読み取りそれを要約し、(2)さらに意見を理由などとともに英語で述べるものが増えてきています。ビジュアル化されたデータから能動的に読み取り、分析

し、それを論理的に説明することが求められています。試験の性格上か、図表の内容要約と意見記述が分かれているものがほとんどですが、今後は、データから情報を読み取り、それを十分に踏まえて自分の考えや意見を記述するという融合型の出題も増えるかもしれません。

[1]以下のグラフを見て、問題(1)に答えなさい。また、問題(2)については、自分の意見を述べなさい。



(1) Summarize the information.
(About 70 words in English)

(2) What can be learned by studying abroad in your view?
(About 80 words in English)

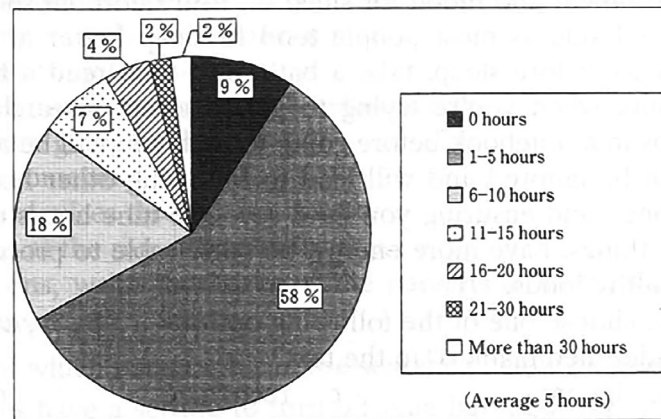
(佐賀大学)

[2]の例は、円グラフがなくとも解答できる問題ですが、①大学生の授業外での学修時間が5時間以内にとどまっている理由、②学修時間を増やすにはどんな方策が考えられるか、について記述することが求められています。このように記述するポイントが明確に示されていますが、

200語近い分量を書こうとすると、単なる思い付きを列挙するだけでは到底十分な内容のエッセイは書けませんから、論理的に考え、説得力をもたせるためにどう構成するか、やはり時間をかけて経験を積む必要がありそうです。

[2] According to a government report, many university students spend on average five hours per week for out-of-class studies including preparation and review on the class and assignments. Why do you think they do not spend more than five? Within 200 English words, give one possible reason you can think of and explain how the study time outside class might be increased.

Fig.1 Out-of-class study hours per week for preparation, review, and assignments



(出典：文部科学省. 「全国学生調査」. 2020)

(愛知教育大学)

「論理・表現」の力を効果的に身につけるためのツール

そのような力、つまり、何らかの現象の課題をどう捉え、それをどんな角度から分析することが可能か、その要因や影響などをさまざまな視点で考えてみる、といったようなことができるようになるためには、ただ漫然と英文を読んで日本語に訳したり、日本語を英語に置きかえるという作業の繰り返しでは、到底難しいでしょう。

現行の学習指導要領では、**スピーチ、プレゼンテーション、(エッセイ)ライティング、ディスカッション、ディベート**などの活動を行うことになっていますが、こうした活動を「仕掛けのツール」として使って論理的に考え、それを表現できる力をつけていこうということです。

いずれの活動も、聞き手や読み手がありますから、わかりやすく、「なるほど」と思ってもらうためには、どういう内容をどんな順序や構成で話したり書いたりすればよいのか考えて、表現しようとしています。ディスカッションをしようとするれば、自分の

考えをもたなければなりませんし、ほかの人が言っていることをよく聞いて理解し、最善の方法は何かについて合意を得るために、粘り強く意見を交換する必要があります。ディベートという一見難しそうですが、自分を肯定派または否定派の立場に置いて、その立場で物事を考え、その根拠やサポートとなるデータを援用して、説得力のある主張をし、逆の立場の主張に耳を傾け、主張をすばやく要約した上で、自分たちの考えと比較することで、とことん深くあるいは別の角度から考えることになります。そんな活動に生徒たちは眼を輝かせ、必死で、楽しみながら取り組むでしょう。

もちろん、スピーチやディベートといった技能そのものを身につけるに越したことはありませんが、それよりもむしろ、スピーチやディベートなどの活動を「通じて」、論理・表現の力をつけるのだと考えるのがよいでしょう。

「スピーキングは入試に出ないからやらない」は論理的か

大学入試にも「スピーキング」が徐々にですが導入されるようになってきていますが、ほとんど皆無に近いといった方がいいでしょう。大学入試センター試験が大学入学共通テストに変わったときに、共通テストは「リーディング」と「リスニング」に特化し、「スピーキング」や「ライティング」は民間の英語試験を活用するはずだったのが頓挫し

てしまったことは周知の事実です。これは、ある意味、非常に残念なことだったと個人的には思っていますが、スピーキングは入試にでないから授業ではやらないと考えてもよいのでしょうか。

大学入学共通テストの「英語(リスニング)」に次のような問題が出題されています。

B 第6問Bは問36・問37の2問です。会話を聞き、それぞれの問いの答えとして最も適切なものを、選択肢のうちから一つずつ選びなさい。後の表を参考にしてメモを取ってもかまいません。状況と問いを読む時間が与えられた後、音声がかかります。

状況

旅先で、四人の学生(Anne, Brian, Donna, Hiro)が、通りかかった店の前で話しています。

学生の四人が話しているのを聞いて、それぞれの人物がエコツーリズムに賛成・反対のいずれの立場であるかを、発言の内容から判断するものです。今、賛成・反対の立場と言いましたが、実際には立場を明らかにしていない人物もいます。具体的には、Brianは「サンゴ礁は絶滅の危機に瀕しているので、保護しなければだめ。エコ

ツーリズムで収入を得る方法が多くある」、Donnaは「エコツーリズムがいい形で地域経済を支えている」と言っていることから彼らは賛成の立場であり、Hiroは「環境を守っているだけでは経済を支えられない」と言っているので反対の立場、Annaは環境を守りつつ経済を成り立たせることの間で迷っているという立場です。

問36 四人のうちエコツーリズムに賛成しているのは何人ですか。四つの選択肢

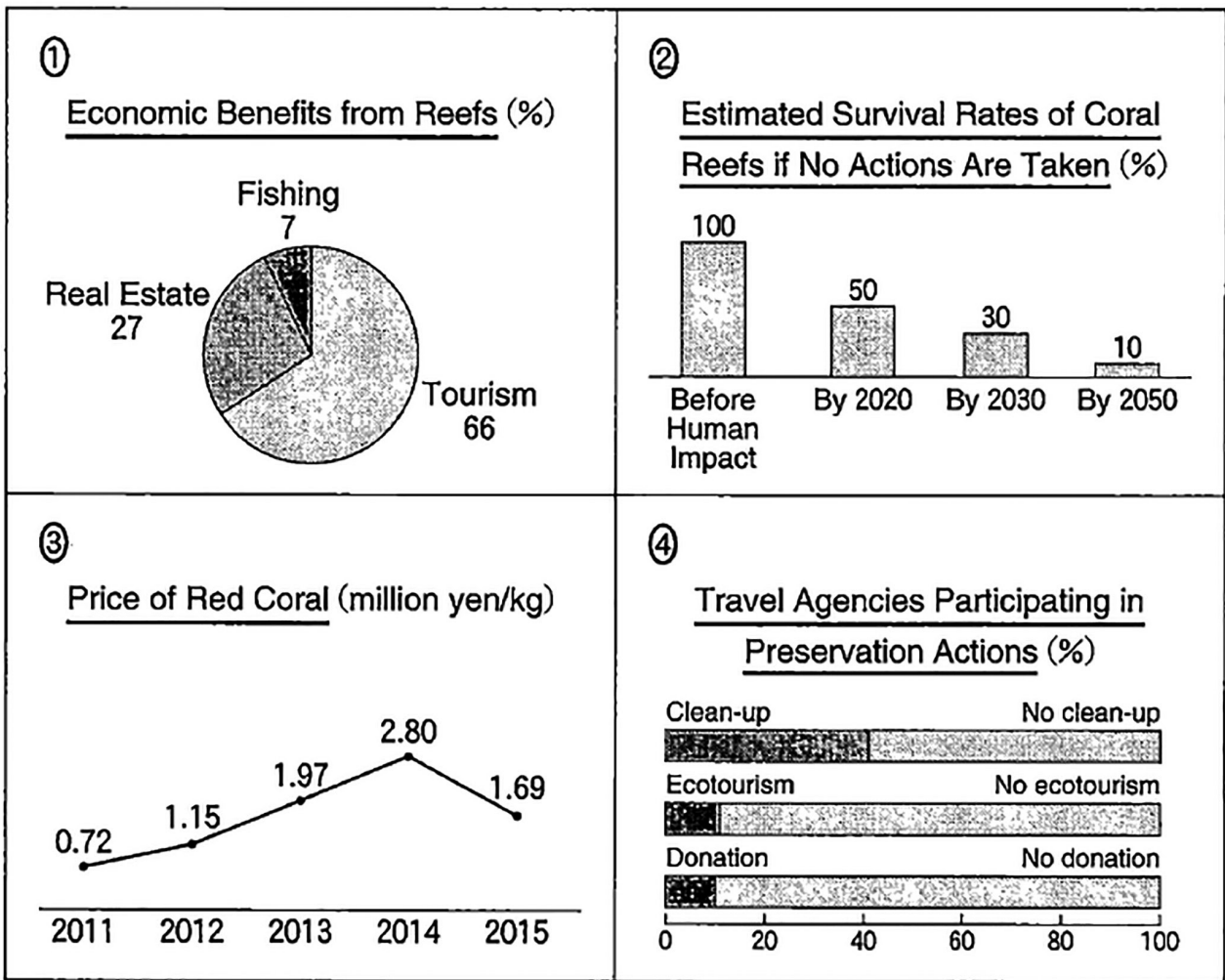
(①~④)のうちから一つ選びなさい。 36

- ① 1人
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人

さらに設問は続きます。Brianの考えの根拠となるデータを選択する問題です。Brianがエコリズムに賛成の立場であるというだけでなく、上で述べたように「サンゴ礁は絶滅の危機に瀕

しているので、保護しなければだめだ」という考えに基づいていることを理解していれば、②が正解だとすぐにわかります。

問37 会話を踏まえて、Brianの考えの根拠となる図表を、四つの選択肢(①~④)のうちから一つ選びなさい。 37



これはリスニング問題ですが、次ページに示す音声スクリプトにあるようなディスカッションを授業の中で経験をしていけば、それほど難しいとは感じないでしょう。自分の主張をサポートするデータとして何がふさわしいか、普段の授業の中で考えた経験があれば、適切なデータを選ぶことも容易になります。

それは、やりとりがどのような形で進行していく

ものなのか、それぞれの人がどんな考えを持っているのか、それはどんな根拠によるのか、他者の立場と考えを自分のものと比較・対照しながら聞き話す、といったことに慣れているからです。そして、なにより音声で話し、理解することに慣れていけば、このようなリスニング問題を恐れる必要はまったくありません。自分で言ったことがある、つまり、話して使ったことがある英語は、聞いて

理解できる確率が格段にあがることは、多くの人が経験していることです。

入試にはスピーキング問題が出ないから、授

業でスピーキング活動などをする必要がないと考えるのは、あまり得策ではありません。

Anne: Hey, Brian. Look at that beautiful red coral necklace. Ooh... expensive.

Brian: Anne, red coral is endangered. They shouldn't be selling that.

Anne: So, how are they going to make money?

Brian: There're lots of ways to do that if we consider ecotourism.

Anne: Yeah... ecotourism.... What do you think, Donna?

Donna: Well, Anne, ecotourism supports the local economy in a good way while protecting the environment.

Brian: Right. So, we shouldn't buy coral; it'll become extinct.

Anne: Oh, come on, Brian. How about the people relying on the coral reefs?

Brian: But, Anne, those coral reefs take millions of years to regrow. We should support more sustainable ways to make money.

Donna: Hey Hiro, didn't you buy some photos of coral reefs?

Hiro: Yeah, taken by a local photographer. They are beautiful.

Donna: That's ecotourism. We shouldn't impact the environment so much.

Hiro: But that's not enough to support people relying on coral reefs for income.

Brian: Hiro has a point. They should find other ways to make money while still preserving the reefs.

Anne: I'm not sure if we are in a position to tell them how they should make their money.

Hiro: Anne's right. Selling coral is their local tradition. We should respect that.

Donna: But, at the expense of the environment, Hiro?

Hiro: The environment is important, but if we protect it, I don't think the economy is supported.

Brian: Anyway, we're on vacation. It's a nice day.

Donna: Let's hit the beach!

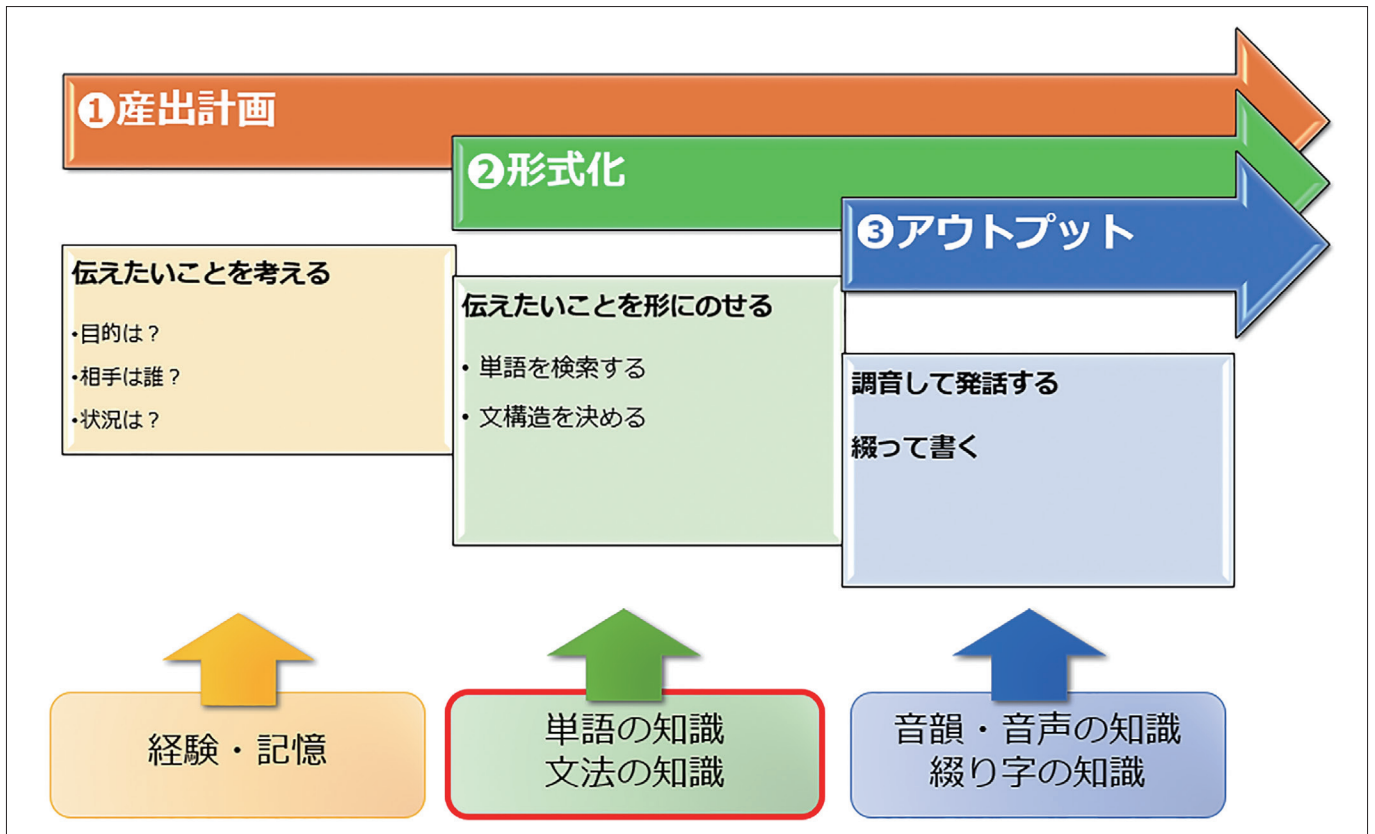
3. 『論理・表現』で効果的に英語運用力を育成するために

「論理・表現」の力を育成するために重要なポイントを、検定教科書も例にとりながら考えてみましょう。

「話す・書く」プロセスにもっと注目してみませんか

私たちが話したり書いたりするときには、①伝えたいことを考える(産出計画)、②伝えたいことを形に乗せる(形式化)、③調音して話す・綴り

字の知識を使って書く(アウトプット)というプロセスをたどります。



もう少し具体的に見てみますと、①では産出の目的、読み手や聞き手が誰か、状況などを総合的に考えて産出計画を立てます。これは決して簡単なことではなく、目的や相手によっては丁寧に伝える必要があったり、わかりやすく説明しなければならなかったりします。そのことが、次のプロセスに大きく影響します。②では、伝えたいことを伝えるために必要な語を頭の中から引っ張り出してきて(もし頭の中になければ辞書を参照するなどして)、それを文法規則にのっとって配列します。何をどう伝えたいかによって語順が決まることもあります。そして、頭の中の音韻情報を

頼りに調音して発話したり、形態情報を頼りに単語を綴って書いたりします。

①の産出計画がうまくいかないと、そこから先にもう進むことができません。②では語彙や文法を操作する力が必要です。しかし、そもそも語彙や文法の知識がなければ運用できませんし、知識があってもめったに使ったことがなければ、流暢に発話したり書いたりすることはできません。③せっかく覚えた単語も発音を知らなければ発話までたどり着きません。

当たり前のことを言っているようですが、まず文法について教わって、それを使って表現すると

いう練習ですと、<形>から<意味>の方向になってしまって、本来のスピーキング・ライティングのプロセスとは大きく異なっています。<意味>

を<形>に乗せる方向の経験をつむことが大切なのです。

トップダウン・スピーキング/ライティングのすすめ

話したり書いたりするときのプロセスにしたがって、産出計画を出発点にしてみませんか。例えば、「あなたの将来の夢は何ですか」(What is your dream?)というお題ならば、

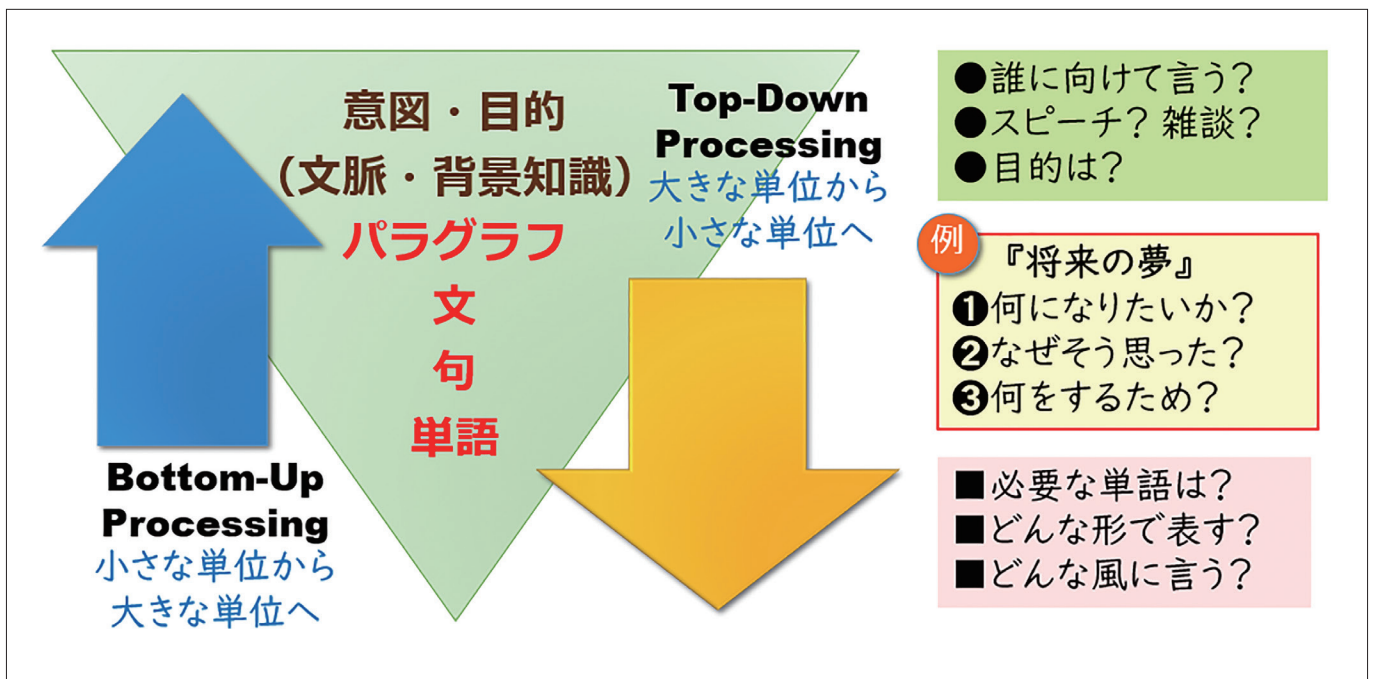
- ①誰に向けて話すのか、それはスピーチそれとも雑談か、目的は何かなど状況を考える。
- ②例えば、「何になりたいのか」、「なぜそう思うのか」、「それは何をするためか」、などと、3文程度で構想する。

といった具合に、考える単位を「単語」じゃなく「文章」にしてみませんか。そしてそれを習慣にしませんか。つまり、大きな単位から小さな単位へと

進めていくのです。とくに②は練習が必要ですが、このとき「論理的に考える力」が身につきます。

そして、こうした計画にもとづいて、必要な語彙を準備して、表現してみます。つまり、繰り返しになりますが、<意味>を<形>に乗せるのです。このとき、「語彙と文法の操作力」が身につくのです。

最後に、どんなふうに話せばわかりやすく伝わるか考えて発話する、といったステップを踏んでいけば、ムリなく話せるように、そして書けるようになっていきます。



検定教科書の例を見てみましょう。

Technology Improves Our Lives? -テクノロジーは私たちの生活をよりよくするか? (Lesson10, pp.87-94)をテーマにしたパートのアウトプット活動は、次のように大きく3つのステップで構成されています。ここではミニ・ディベート

をすることになっています。順に見ていきましょう。

① **Generating Ideas**で、肯定側と否定側のそれぞれの立場で、できるだけ多くその立場をサポートする理由を挙げてみます。まず一人で、そのあとペアやグループで話し合うと、多様な視点から考えることができるでしょう。

B Presenting Your Ideas

1 Generating Ideas

話す材料を考えよう

- 「AIは人類の発展のために重要である」という論題に対して、肯定側・否定側両方の観点から、そのように考える理由を考えよう。まず日本語でできるだけたくさんメモし、それを英語にしてみよう。

語彙・表現リスト

p.143



肯定側	否定側
<input type="checkbox"/> AIが人間の代わりに働いてくれるようになるだろう。 AI will work for humans.	<input type="checkbox"/> AIが人間の仕事を奪ってしまうだろう。 AI will take away our jobs.
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

② Organizingでは、自分（ペアまたはグループ）の立場をどちらかに決めて、説得力があると思う理由を2つに絞り、それを補強する具体例や根拠などを加えて、英語で表現してみます。さら

に、予想される反論も考えて、対抗できるように準備します。生徒には表現したいことがありますから、それを表現するために辞書を引くことも厭わないでしょう。

2 Organizing

話の構成を考えて、英語にしてみよう



- 論題に対するあなたの立場を決め、理由や具体例、予想される反論などを整理し、それを英語でどう表現するか辞書などで調べながらまとめてみよう。

Proposition : AI is important for improving our future lives.

肯定派 否定派

理由 1	予想される反論
具体例など	
理由 2	予想される反論
具体例など	

③ Debatingでは、肯定側と否定側がひとつのペアになって、ミニ・ディベートをします。せっかくの考えや理由も相手に伝わらなければなりませんから、どうしたら相手にわかってもらえるか

を考えて、十分練習をして臨むとよいでしょう。ただ書かれたものを音読する作業とはまったく違って、生徒たちは意欲的に取り組むでしょう。

3 Debating

ミニ・ディベートをしよう



- 1 相手に意見や理由が伝わるよう、具体例などを示しながら工夫して話そう。
- 2 発表者の意見を聞いて、メモを取り、質問しよう。
- 3 相手の意見を理解し、下の例などを参考に、反論してみよう。

例 You said that the ability to memorize things is not important. However, that is not true, because memory is the basis of higher learning.

(あなたは記憶する能力は重要でないと言いました。しかしながら、それは正しくありません。なぜなら記憶力は高度な学習の基礎だからです)

このような3つのステップは、スピーキング・ライティングの自然なプロセスをたどったものです。このようなプロセスをたどることで、スピーキング・

ライティングの力が効果的に身につく、新規の課題に対しても即興で対応できる力が養われることになるでしょう。

アウトプット活動によってこそ「文法操作力」が磨かれる

ここまで来るとすでにお気づきのように、話したり書いたりするときこそ、確かな文法力が必要であることが分かります。読んだり聞いたりするときにも、文の構造を解析するプロセス(専門的には「統語解析」と呼ばれています)が、外国語学習者はこの作業がとても苦手です。それでどうするかというと、統語解析をせずに、単語の意味を適当に拾ってそれをつなぎ合わせ、「なんとなく」理解して済ませるのです。意外に思われるかもしれませんが、読んだり聞いたりするときには、文法を活用して文の構造を解析することをやらずに済ませていることが多いことが分かっています。

ところが、話したり書いたりするときにはそうはいきません。伝えたいことを話したり書いたりするためには、文法を使って語を配列して構造を作り上げるということを絶対にしなければなりません。そうでなければ、単語を適当に発するしかありませんから、よほど単純なことでないかぎり、正確に伝えることはできません。言い換えれば、話したり書くときは、文法を使わざるを得ないということです。したがって、話したり書く活動によって文法の操作力を伸ばすことができるわけです。そうして身につけた文法力は読むときや聞くときに効果を発揮することになります。

「主体的に学ぶ意欲・態度」の源泉は「題材」

上で、最近の大学入試の出題例をいくつか挙げましたが、入試問題の形式で練習を繰り返せば、話したり書く力が効果的に身についていくというものではありません。何もないところに、いきなり話しなさい・書きなさいと言われても、話したり書こうという意欲は湧いてきません。また、伝えたいことをどう生み出して、それをどう構成

すればよいかという「考える」ことこそ、時間と労力をかけて涵養をはかっていくべきものでしょう。いきなり、「田舎の生活がいいですか、それとも都会の生活がいいですか」と問われても、たんなる思い付きだったり、とても個人的な考えだったりして、到底深みのあるものにはなりません。したがって、題材とその仕掛け方が決定的に重

要です。

CROWN Logic and Expression I(三省堂)には、たとえば、「ボランティア活動の是非」を扱ったLesson 5 Volunteer Work for What?という課があります。このテーマはよく取り上げられるものですが、教科書では次のように展開していきます。

まず、課の扉のREADYは、ボランティア活動について話し合う活動から始まります。具体的には、「ボランティア活動の経験の有無」、「ボランティア活動の動機」、「どんなものをボランティア活動だと思っているか」について意見交換することから、「考える」ことが始まります。



Think & Talk ボランティア活動について、話し合ってみましょう。

1. Have you ever done volunteer work?
2. What do you think motivates us to do volunteer work?
3. Do you think the following things are volunteer work?
—picking up garbage / showing someone the way / offering someone your seat

最初のGETのセクションでは、Is This True Volunteer Work?—ボランティア活動ってどんなもの?をトピックに、①健とメアリーがボランティア活動について話しているダイログを聞いて要点を理解し、②その内容を踏まえて、「健のボランティア活動に対する当初の考えについてどう思

うか」考えてやりとりし、③さらにボランティアの目的についてのデータを読み取り、④その内容を踏まえて、「あなたは誰のためにボランティア活動をするのか」を考えて意見交換するようになっています。

①

Points

- ① What is Ken doing as a volunteer?
- ② Why did Ken start volunteering?
- ③ What aspect of volunteering does Mary think is important?

Mary: How is your volunteer work going?

Ken: Well, I'm finally **getting used to talking** with elderly people at the nursing home. I really **enjoy seeing** their smiles. But I sometimes feel sorry for them.

~することに慣れる
5 ~することを楽しむ

Mary: **What's wrong**, Ken?

Ken: I feel dishonest because I **started doing** volunteer work for myself. I mean, I **regret starting** it to get an advantage on entrance exams.

~することを始める
~したことを後悔する

Mary: Ken, **that doesn't matter**. I think you now **feel like doing** something for others. That's the most important thing.

10 ~したい気がする

②

TASK

前ページのダイアログの内容を踏まえて、あなたは健のボランティア活動に対する当初の考えについてどう思うか、下線を言い換えて、グループで意見交換してみよう。

A: What do you think about Ken's idea?

B: I think even if Ken does it to get an advantage on entrance exams, his work is beneficial for elderly people.

A: You mean his volunteer work truly makes elderly people's life more comfortable.

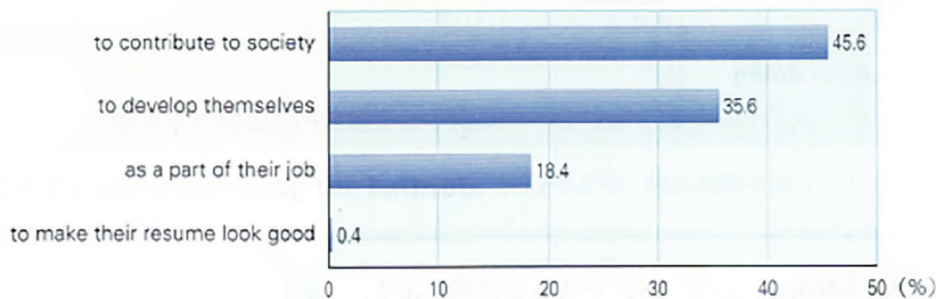
●beneficial 「有益な」

③

Points

- ① このグラフは何を表したものか？
- ② ボランティアをする目的として最も多いものは何か。
- ③ ボランティアをする目的として最も少ないものは何か。

Why Did People Do Volunteer Work?



【出典】平成 28 年度市民の社会貢献に関する実態調査報告書

- ① This bar graph shows () people did volunteer work.
- ② ()% of people did volunteer work because they wanted to contribute* to society. [*contribute : 貢献する]
- ③ On the other hand, ()% of them did volunteer work for looking good on their resume*. [*resume : 履歴書]

④

TASK

データの内容を踏まえて、あなたは誰のためにボランティア活動をするのか、その理由とともに、下線を言い換えて、グループで意見交換してみよう。

A: Who is volunteer work for? What do you think?

B: I think volunteer work is for the people who do it because we can develop ourselves by contributing to society.

A: That's true, but I think that thinking of other people is the most important thing when we do volunteer work.



続くUSEのセクションでは、Should Students Do Volunteer Work?—高校生はボランティア活動をすべきか?をトピックに、⑤健とメアリーがディベートしているのを聞いて要点

(健の立場、その理由、メアリーの反論の理由)を理解し、⑥それをもう一度聞いて、話の構成を捉え、⑦3つのステップを踏んでミニ・ディベートを行うようになっています。

5

1 Listen & Take Notes

聞いて、要点をとらえよう



「高校生はボランティアをすべきだ」という論題で、健とメアリーがディベートをしています。ディベートを聞いて、健の意見が For (賛成) なのか Against (反対) なのかを選び、その理由を下から選びましょう。また、メアリーの反論の理由をメモしよう。

健の意見 (賛否)	理由	メアリーの反論の理由
For / Against	(a) The town will be clean. (b) People around us will be happy. (c) People can enjoy collecting garbage.	

6

2 Listen for Details

話の構成を考えて、英語にしてみよう



もう一度討論の一部を聞いて、スクリプトの空所を埋め、話がどう展開しているか話し合ってみよう。

① **Ken**: I think high school students should do volunteer work. We can make people around us happy by **doing** volunteer work. For example, we can (①) up around our town. ~すること

② **Mary**: I don't agree with you. Even if we make our town clean, it will be messy* again soon. Volunteer work doesn't **stop** people from **throwing** (②) in the street. People will not be happy. ~が...することを妨げる

*messy 「散らかった」

7

1 Generating Ideas

話す材料を考えよう

「高校生はボランティアをすべきだ」という論題で考えられる理由を、できるだけたくさん下の表にメモしよう。


語彙・表現リスト

p.140



	自分 (高校生) にとって	ボランティアを受ける側にとって
① 賛成の理由	例) 人を幸せにできる	例) さまざまな負担が減る
② 反対の理由	例) 学校で学ぶことがたくさんある	


2 Organizing

話の構成を考えて、英語にしてみよう 

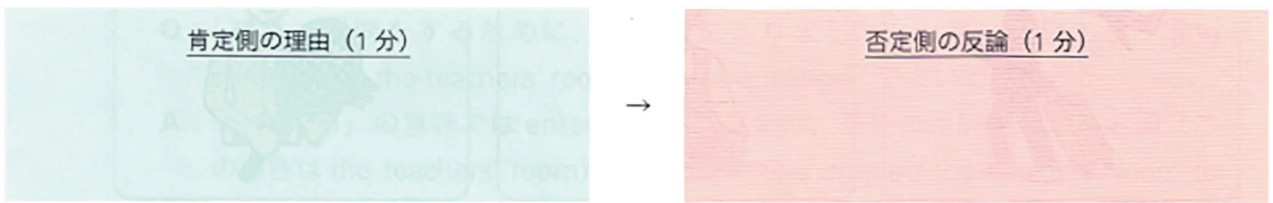
- あなたは上の論題に賛成ですか、それとも反対ですか。また、その理由は何ですか。下の表現を使いながら、考えてみよう。

① 賛成の理由	I think high school students should do volunteer work because _____ _____
② 反対の理由	I don't think high school students need to do volunteer work because _____ _____

3 Debating

ミニ・ディベートをしよう 

- ペアで役割を決めて、ディベートしよう。
- ① 肯定側から理由を言って、否定側は反論してみよう。



- ② 次に、否定側から理由を言って、肯定側は反論してみよう。



ここで注目したいのは、「ボランティア活動」と一口に言っても、「考える」ことのステップをいくつも踏んで、最後の「ボランティア活動をすべきかどうか」についての考えが深まるようになっていく点です。「考える力」を育てるにも、丁寧なステップが必要です。このような能力こそ、早い段階から少しずつ養うべきものでしょう。

もう一つ注目したいのは、①に示したダイアログは、健とメアリーは架空の人物ですが、実際の高校生が日ごろ感じている率直な考えであるという点です。こうしたリアル感も、同じ高校生の共感を呼び、考えようという積極的な態度につな

がりやすくなります。

最後の⑦では、漠然とボランティア活動について意見を述べるのではなく、「高校生にとって」と限定して考えてみるとどうなるか、さらに「ディベート」を仕掛けることでより考えが深まりやすくなっている点にも注目したいところです。

このような学習によってはじめて、大学入試の出題例でみたような問題にも、安心して、確かな自信を持って、対応することができるようになります。検定教科書にも、課のテーマから離れて、その課までに学んだことが活用・応用できるかどうかを試すタスクが、課の最後に用意されています。

Mini Debate

次の3つのテーマの中から1つ選び、肯定・否定の立場を決めて、それぞれの意見と反論を考え、ディベートしてみよう。

- ① High school students should go to foreign countries on school trips.



- ② High school students should experience part-time jobs.



- ③ High school students should do club activities.



4. TOEFL Junior® と『論理・表現』の親和性

これまで見てきましたように、『論理・表現』の授業でさまざまな話したり書いたりする活動を通じて、聞き手や読み手のことを考えながら、論理的にものごとを考え、それを英語で表現する力を身につけていきます。それは、なにかをただ暗記すればよい、あるいはルールを覚えればできる、という簡単なプロセスではなく、時間と労力をかけて少しずつ積み重ねていくプロセスであること

を見てきました。

このような力は一朝一夕に身につくものでもなく、小手先のテクニックが効くものではありません。そういった意味では、同様に小手先のテクニックでは高いスコアを取ることができないTOEFL®ファミリーのテストは、『論理・表現』の力をどの程度、真の意味で身につけることができたかを試すのに最適のテストの一つと言えるでしょう。

TOEFL Junior® Standardで「論理力」を試す

TOEFL Junior® Standardは、「A1～B2レベル(CEFR公式マッピングはA2～B2)の英語運用能力を測るTOEFL®ファミリー中級段階のテスト」とされていますから、まさに高校生の皆さんが受験するのに最適のテストです。

すでに述べましたように、読む力や聞く力を効果的に伸ばすためには、話したり書いたりすることが有効です。『論理・表現』で鍛えた、自分の伝えたい要旨は何か、どんな主張をするか、その主張をサポートする理由や具体例は何か、事実と意見を区別できているか、伝えたいことを伝

えるためにどんな単語や言い回しを使って表現するか、聞き手や読み手の印象に残るようにどんなレトリックを使うか、などのスキルはTOEFL Junior® Standardで測ることができます。そのことはTOEFL Junior® Standardの「リーディング(Reading Comprehension)」や「リスニング(Listening Comprehension)」でどんな力を測っているかを示した以下のリストを見れば明らかでしょう(https://gc-t.jp/about_test/junior/参照。サンプル問題もあります)。

リーディング

測る力

- 文章の要旨をつかんで、リーディング文章全体の内容を理解できる。
- 文章内で直接述べられている事実情報、主要な詳細情報、または補助的な詳細情報を特定できる。
- 文章内で直接述べられている情報に基づいて、どの情報が正しいのかそうでないのか、または文章の中で述べられていないかを把握できる。
- 対象となるリーディング文章の中で、書き手が情報を提示している理由を特定できる。
- 書き手が用いる間接的な表現の意図をつかむことができる。
- 直接述べられていない文章の中で強く暗示されている考えや事実を理解できる。
- 代名詞と指示の対象となっている語句（代名詞が指している言葉）の関係を特定できる。
- 文脈から個々の語句の意味を理解できる。
- 文章の中で重要な意味を含むフレーズを文脈から理解できる。

内容・題材

日常的なポスターやメモ、メール、図表、新聞・雑誌の記事から、また自然科学、社会科学、人文科学、芸術などアカデミックな文章から出題。

リスニング

測る力

- 提示された情報の要旨または要点を理解、解釈し、重要なポイントを言い換えることができる。
- 話し手がある情報を提示している理由、または2人の話し手がなぜその話題について討議しているのかを理解できる。
- 比喩などを使った間接的な表現の意図をつかむことができる。
- 話し手がはっきりとは述べていない暗に示した特定の情報を理解できる。
- 話し手が言った内容に基づいて、次に取られる可能性が高い行動を予測することができる。
- 英語のアクセントやイントネーションの変化から話し手の意図をつかむこと、さらに英語の慣用表現を理解することができる。
- 授業、討議、会話のメインテーマに関連する重要な詳細情報を特定することができる。

内容・題材

日常会話などノンアカデミックなカテゴリーと、自然科学、社会科学、人文科学、芸術などのアカデミックなカテゴリーにおける、会話、レクチャー、プレゼンテーション、アナウンスから出題。音声は、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの発音を含む。

上に示されている「測る力」を丁寧に見てみると、繰り返しになりますが、こういった力は話すこと・書くことによって効果的に磨くことができる

ことがお分かりいただけると思います。スピーチやプレゼンテーションでは、そこにはテーマがあり、全体の話の流れや構成、主張と理由や具体

例の関係などを考えて表現することになります。ディスカッションやディベートでは相手が言ったことを要約して要旨を捉えて、自分が意見を述べたりさらに主張したりしますが、そのときに複数の角度からものごとを捉えて考えて表現することに

なります。そういった経験によって磨かれたスキルが、読むときや聞くときに転移して、リーディングやリスニングの正確さをさらに高めることに貢献します。その力はTOEFL Junior® Standardで適切に測定することができるでしょう。

TOEFL Junior® Standardで「語彙・文法力」を試す

そしてもう1つ忘れてはならないのが「表現力」です。「表現力」は、伝えたいことをことば(形)に乗せるときにだいじな力ですが、「語彙力」と「文法力」に相当するものです。TOEFL Junior®

Standardでは「文法・語彙(Language Form and Meaning)」のセクションがあり、以下のような力を測ることになっています。

文法・語彙	
測る力	内容・題材
<ul style="list-style-type: none">• 文法的に正しい英語の文章を完成させるために、適切な内容や構造を識別することができる。• 正しい文章を完成させるために、単語の意味に基づいて正しい単語を選ぶことができる。• 文法知識のみではなく、文脈から正しい言葉を判断し、適切に発信することができる。	手紙、メール、エッセー、雑誌、記事、プレゼンテーション、伝記など、それぞれノンアカデミック・アカデミックなまとまった文章から出題。

直接、話したり書いたりするわけではありませんが、語彙や文法を、文脈の中で、正確に、そして適切に使う知識と運用力があるかどうかを測る内容になっています。語彙や文法を、いわば「受身的に」学習するだけではこうした問題で正解するのは容易ではなかったり時間がかかったりし

ます。しかし、話したり書いたりすることによって「能動的に」学習してきた人であれば、知識がより明確に脳内に定着しやすく、試行錯誤しながら使った経験がありますから、容易に自信をもって短時間に正解を選び取ることができるわけです。

TOEFL Junior® Speakingで「論理的に、聞いて話す力」を試す

TOEFL Junior® には、「スピーキング」テストも用意されています。TOEFL Junior® Speakingは、「CEFR A2～B2レベルのスピーキング能力を世界基準で測定する、TOEFL®ファミリー中級レベルのテスト」で、インターネットで約18分と短時間で受験ができ、ETS公認の複数のRater(採点者)により評価される信頼性の高いテストとな

っています(https://gc-t.jp/about_test/junior_speaking_description/ 参照。サンプル問題もあります)。

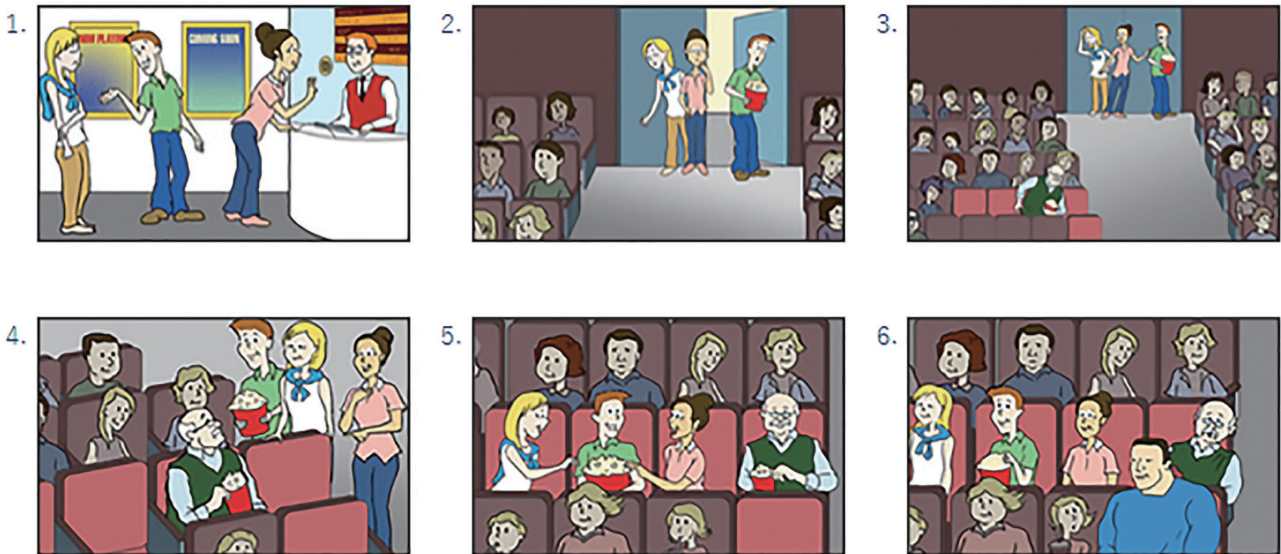
問題内容は、① Read Aloud(音読)、② Picture Narration(絵の説明)、③ Listen-Speak — Class/School Activity(聞く・話す—授業/学校での活動)、④ Listen-Speak — Academic

Talk (聞く・話す—学校の授業) の4つです。

Picture Narrationでは、連続した絵を見てストーリーを1分間で考えて、1分間で話します。すでに絵が与えられていますが、場面や文脈を考

えながらストーリーの展開を考える必要がありますから、筋道を立てて考えることができるか、そしてそれを適切に表現できるかが勝負です。まさに『論理・表現』で培った力を測る問題です。

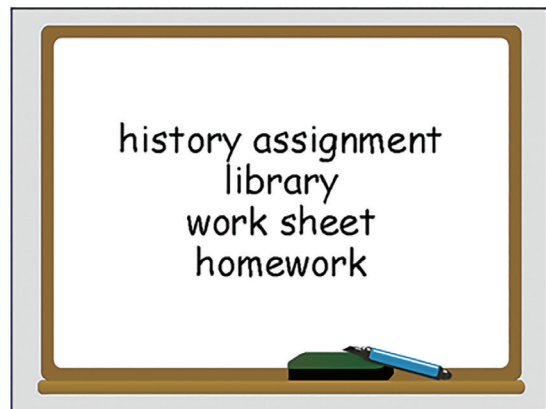
The six pictures below show a story about something that happened at a movie theater. First, look at the pictures and prepare the story. Then, you will be told when to record the story. You will have one minute to prepare. Then you will have one minute to tell the story that the pictures show.



Non-Academic Listen-Speakでは、対話を聞いて、それにもとづいて以下の問題では「欠席していた人に何をすべきか伝える」ことを目的に、「図書館、ワークシート、宿題」という要点を漏らさず、簡にして要を得た表現ができるかどうかを試されています。漫然と聞いて、記憶に残っていることや聞き取れたことだけを、断片的に

だらだら話すわけではありません。要点を押さえて、相手（ここではその場にいなかった欠席者）に間違いなく伝わるよう配慮して表現しなければなりません。ここでも、要点とあまり重要でない情報を区別して、整理して表現できるかどうかのポイントで、やはり『論理・表現』で培ったスキルを発揮する問題です。

First you will listen to a teacher or a group of students talking about a school-related topic. Then you will talk about what you heard. You may take notes as you listen. You will have 45 seconds to prepare and one minute to record your answer into the microphone.



Imagine that your classmate was not in class today. Tell your classmate about what the history teacher asked the students to do. Be sure to talk about the following:

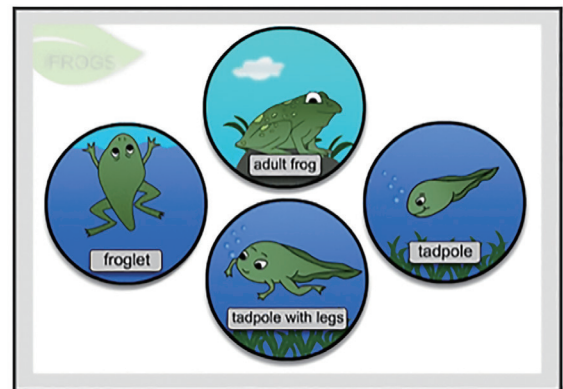
- the library
- the worksheet
- the homework

Academic Listen-Speakでは、レクチャーを聞いて、45秒で内容を整理し、以下のサンプル問題では、カエルの変態のそれぞれ段階（オタ

マジヤクシ→脚のあるオタマジヤクシ→カエルの子→大人のカエル)についてできるだけ詳細について1分間で説明します。

First you will listen to a teacher talking about an academic topic. Then you will talk about what you heard. You may take notes as you listen. You will have 45 seconds to prepare and one minute to record your answer into the microphone.

Now listen to a teacher talking to a science class. The teacher is explaining how frogs grow.



Talk about the physical changes a frog goes through. What happens at each stage? Be sure to include as many details as you can about each stage.

- tadpole
- tadpole with legs
- froglet
- adult frog

レクチャーを聞いてそれをリテリングする(聞いたレクチャーを、原稿を見ない状態でそのレクチャーの内容を再構成して話す活動)問題ですが、レクチャーそれ自体が論理的に構成されていますので、筋道を立ててわかりやすく話したり書いた

りする参考におおいになるものです。自分の考えを述べるものではありませんが、論理的に適切に表現できるかどうかを測るものになっています。『論理・表現』で培った力がそのまま反映される問題だと言えます。

5. おわりに

本稿では、今がどんな時代なのかに鑑みて、高等学校の英語に新しく登場した『論理・表現』がどんな科目なのか、どう指導すればよいのか、授業を通してどんな生徒たちを育てようとしているのか、検定教科書の実例や最近の大学入試の出題例とあわせて、その一端を解説してきました。そして、そこで身につけてきた「論理・表現力」を客観的に測るツールとしてTOEFL Junior®を

どう活用できるかを検討しました。このような国際標準の試験も効果的に活用しながら、生徒たちが英語でこんなことを表現してみたいと目を輝かせて取り組み、学んだことが学んだ分だけ、これからの時代をたくましく、そして幸せに生きていく力につながるよう、教室を本質的な学びの場にしたいものです。

参考文献・引用文献

『2023年度受験用 全国大学入試問題正解 英語 国公立大編』旺文社。

Global Communication & Testing (監修)『TOEFL Junior® STANDARDテスト公式問題集』くもん出版。

横川博一ほか (2020). CROWN Logic and Expression I . 三省堂. [高等学校外国語科用文部科学省検定済教科書]

著者紹介

横川 博一 神戸大学・大学教育推進機構・教授

1968年京都府生まれ。京都教育大学大学院教育学研究科修士課程(英語教育学、修士)、大阪大学大学院言語文化研究科博士前期課程(言語文化学、修士)、同大学院博士後期課程修了(言語文化学、博士)。京都外国語大学専任講師、神戸大学助教授・准教授を経て、2011年より現職。専門領域は、心理言語学・英語教育学。

主な著書に、中学校英語教科書NEW CROWN English Series、高等学校英語教科書MY WAY English Seriesの編集委員(ともに三省堂)、高等学校英語教科書CROWN Logic and Expression(代表著者、三省堂)のほか、『外国語運用能力はいかに熟達化するか：言語情報処理の自動化プロセスを探る』(松柏社、共編著)、『より良い英語授業を目指して一教師の疑問と悩みにこたえる』(分担執筆、大修館書店)、『英語のメンタルレキシコン：語彙の獲得・処理・学習』(分担執筆、松柏社)、『英語語彙指導ハンドブック』(分担執筆、大修館書店)、『研究・教育のための第二言語データベース：日本人英語学習者の英単語親密度<文字編>、<音声編>』(くろしお出版、編著)などがある。